

環境負荷の低減を目指したモノづくりの推進

法令順守を果たせるよう、最新の法令・客先動向の変化を的確に把握し、PRTR法^{*1}対象物質やVOC^{*2}、客先規制物質などの徹底管理、そして使用量の低減に努めています。

マネジメント

2010年度活動実績

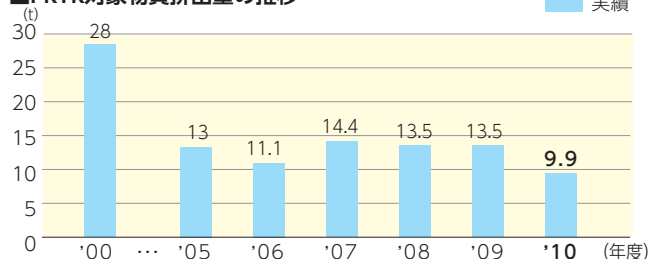
2010年度のPRTR法の改正により、対象物質が変更(354→462物質)となったため、当社での使用状況を再度見直し、改正法への対応を行いました。

その結果、対象物質は全12物質(のべ13種類)、総取扱量が226.8t、総排出量9.9tで、排出量は前年度より大幅に減少となりました。

そのほか化学物質審査規制法^{*3}の改正、GHS^{*4}対応によるMSDS^{*5}の改訂を踏まえ、社内のデータ整備を図りつつ、塗料の代替化などの対策を進めています。

また大気汚染防止法のVOC対象物質の排出量は、74.6tとなっているほか、土壌・地下水汚染に関しては、新たな汚染は確認されず、引き続き浄化活動を継続しています。

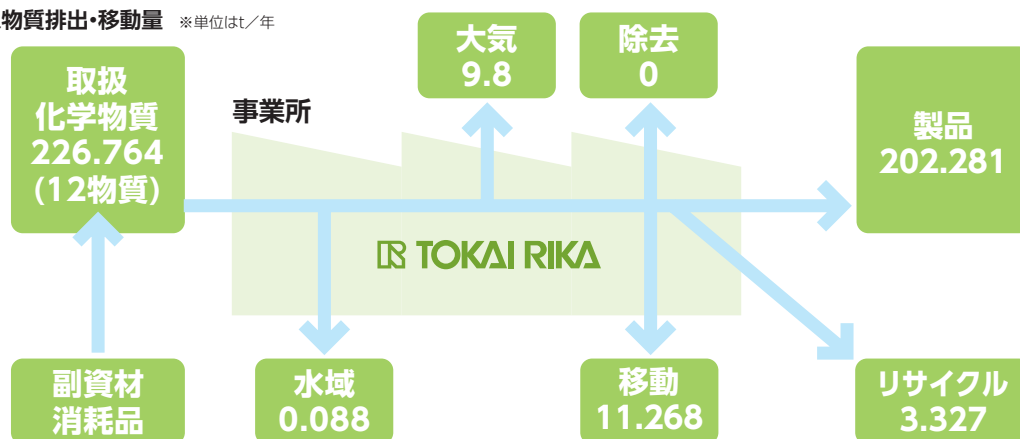
■PRTR対象物質排出量の推移



■物質別排出量



■PRTR対象物質排出・移動量 ※単位はt/年



【PRTR対象物質排出・移動量】の定義について

- ・取扱化学物質は取扱量が1t/年以上となる物質で法報告対象となるものを開示対象としています。ただし、6価クロム化合物とニッケル化合物に関しては、特定第一種のため、0.5t/年以上を対象としています。
 - ・移動量は、当社から廃棄される物質で、下水域や逆有償リサイクルを含みます。
 - ・リサイクル量は、有償(売却)回収分のみを対象としています。
 - ・除去量は、工程中で変化するものを対象としています。
 - ・製品含有量は、製品に含まれ工程で消費されるか、製品付着のまま社外へ持ち出されるものを対象としています。
- ※2010年度より対象物質増加



中期目標値

PRTR 対象物質総排出量



マネジメント

環境負荷物質評価活動の実施

- ※1 PRTR 法 (Pollutant Release and Transfer Register) : 化学物質排出把握管理促進法。有害性のある物質を使用、排出、移動量を把握・集計・報告する仕組み。2010 年度に改正され対象物質が変更となった。
- ※2 VOC(Volatile Organic Compounds) : 揮発性有機化合物。比較的低温で揮発し、大気中で気体状となる炭素を含む化合物。光化学オキシダントの原因となっている。
- ※3 化学物質審査規制法: 人や動植物に影響を与える化学物質の製造や輸入を禁止・制限する法律。
- ※4 GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals) : 化学品の分類および表示に関する世界調和システム。世界中の人が化学品を正しく取り扱うよう、危険性を統一表記する仕組み。日本では、2010 年未までの対応が義務付けられている。
- ※5 MSDS (Material Safety Data Sheet) : 化学物質安全性データシート。化学物質が含まれる材料や化学物質そのものを安全に取り扱うために必要な情報を記載したもの。
- ※6 IMDS (International Material Data System) : 新型車の環境負荷物質、使用済み自動車やリサイクル率に関する規制などを含んだ欧州指令に対応するため、欧米で開発された情報システム。現在は世界標準のシステムとして稼働している。

鉛、水銀、カドミウム、六価クロムは、環境に悪影響を与える物質として世界中で規制されています。当社では、メーカー提供のデータだけに頼らず、独自で蛍光X線分析などを実施し、これらの物質の非含有を確認しています。

その他の環境負荷物質に対しては、IMDS^{※6} を利用した非含有の検証を推進するとともに、新規規制物質に対しては、これらを含まない代替材料の選定と性能確認を実施しています。



▲X線による分析

生産

洗浄用シンナーのリサイクル化

経路や塗装機器洗浄で用いる洗浄用シンナーが環境に与える影響を考慮し、使用済みのシンナーを回収し、再利用する装置を導入しました。これにより洗浄用シンナーの購入量を 2,880 ℓ/年、コストを従来比 6%低減させることができました。



シンナー回収装置▶

生産

亜鉛めっきラインの薬液使用量低減

亜鉛めっきの製造工程で使用する薬液を「希硝酸」から「希硫酸」へ変更したことにより、めっき液の更新周期が延長されました。その結果、薬液の使用量及び液交換時の廃液量を低減させることができたほか、工場排水に含まれる環境負荷物質の低減にも貢献しました。



廃液の低減量

7,300ℓ/月

亜鉛めっきライン▶

